

☆☆ “労働災害”について ☆☆

◆テーマは労働災害についてです。

労働災害とは、作業環境、作業行動などの業務上の事由によって発生する労働者の負傷、疾病、死亡をいいます。また、通勤途上における負傷、疾病等も「通勤災害」として、労働災害に含まれる場合もあります。

業務中の事故は、労働者の過失・不注意から引き起こされる場合や、使用者の保安対策・環境対策の欠如等に起因する場合がありますが、予測できない突発的な事故や前述の要因が複数重なって発生する場合もあります。

イタックスの労働災害の状況や情報を皆様にもっと知ってもらい、働く人と雇用する会社両方が安全衛生の意識を高められたらと願います。

◎労災発生状況

労災事故に関するお知らせ

労災事故発生件数 14件(通勤労災含む) (平成29年4月1日～平成29年6月10日発生分)

★業務中の事故・死亡	… 0件	★通勤途中の事故	
・傷病程度休業4日未満…	5件	・傷病程度休業4日未満…	3件
・傷病程度休業4日以上…	4件	・傷病程度休業4日以上…	2件



・休業4日以上を有する労災発生の件数

例年より多発しており、4件発生しています。事例では、右足首捻挫(休業19日)、左手親指つけ根打撲(休業6日)、左掌切傷(休業9日)、左手薬指創傷(休業10日)の4件が現在発生しています。

原因としては、カッター・包丁等の使用方法が適切ではなかったり、冷凍庫内等の特殊な場所での作業時に注意・配慮が不足していたりと、人為・方法・環境によるものです。

作業手順書等は、労働者の安全も意識して作成されています。自分の身を守る為には、作業手順を守る事が基本です。また、作業環境の適切な整備も必要です。5S活動にもつながることですね。

・通勤労災の発生件数

こちらも例年より多発しており、5件発生しています。子供のころ聞いたことありませんか？

「遠足は、家に帰りつくまでが遠足です」

大人になっても同じで、勤務には通通勤も含まれています。過度の疲労が有る状態での運転や、考え事をしながらの運転は危険です。一般の交通・運転ルールを守りましょう。

労働災害は、会社(使用者)の取り組みだけではなく、労働者も含めた全体的な意識向上と取り組みが大切です。

会社(使用者)は、安全配慮義務に従い、安全な労働環境の整備・適切な作業方法の教育や健康管理を確実に行います。

労働者は、従事する作業の方法・注意事項を順守することや、自己の体調を適正に保つこと(自己保健義務)が基本です。

◆◆◆イタックス全体で労働災害発生ゼロを目指しましょう◆◆◆



\*\*\*お願い\*\*\*

万が一、職場・通勤時で事故が発生した場合…

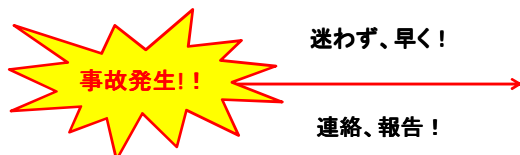
迅速な連絡・報告が第一です！

「事故発生時に言うか言わないか迷った…」 「事故発生時にはどこも痛くはなかった…」

「報告すると叱られそう…」

事故が発生すると、色々な気持ちが生じてきますが、先ずは責任者・管理者への連絡報告を忘れないでください。事後の報告では、労働災害と認められない場合もあります。

「起こったことは仕方がない」と気持ちを切り替え、次の早い行動が大切です。迅速な対応、適切な処理が行えることにより、事故被害者の損害・損失は最小に抑えられることも理解して下さい。



派遣先では 派遣先企業の指揮命令者・責任者 イタックスの管理担当者
事業所では 現場指揮命令者・事業所長

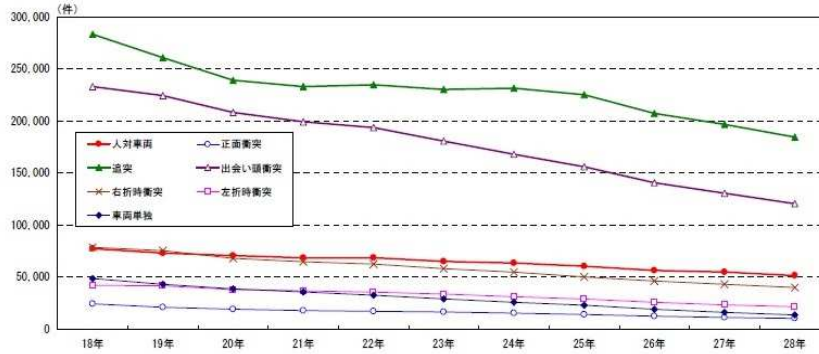
## ☆☆ “交通安全”について ☆☆

皆さんは日々、車や自転車など安全運転していると思います。  
しかし日本では年間60万人を超える方が交通事故で死傷されている悲惨な状況があります。  
被害者にも加害者にもならぬよう、再確認の意味でも交通安全について考えてみましょう。

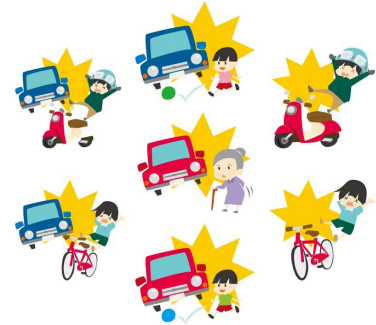
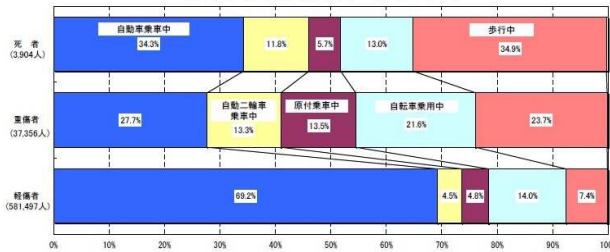
★平成28年中の交通事故発生状況

発生件数	49万9,201件	前年比	-37,698件	-7.0%
うち 死亡事故件数	3,790件	前年比	-238件	-5.9%
死者数	3,904人	前年比	-213人	-5.2%
負傷者数	61万8,853人	前年比	-47,170人	-7.1%

◎ 事故類型別交通事故件数の推移



状態別死傷者数（構成率）（平成28年中）



### 《平成28年中の交通事故死者数の特徴》

- 死者数では**歩行中と自転車乗用中が多く**、歩行中死者のうち、法令違反あり死者数が62%を占め、特に**高齢者の横断中死者数（走行車両の直前直後横断、横断歩道以外横断、信号無視）が多くなる傾向**にあり、また**昼間より夜間での発生が多かった**。
- 自転車乗用中死者のうち、法令違反あり（信号無視、一時不停止）が78%を占め、特に**夜間、高齢者が事故にあう割合が高かった**。
- 二輪車は他の車両に比べて死亡事故率が高く、特に**車両単独事故（工作物衝突、転倒）と車両相互では、正面衝突の割合が高かった**。

- 類型別では**正面衝突等（正面衝突、路面逸脱、工作物衝突）、横断中、出会い頭衝突が多かった**。正面衝突等死亡事故については、**年齢と共にハンドル操作不適や前方不注意（漫然運転等）による死亡事故が多くなる傾向があった**。

### ※ドライバーの皆さんは

思いやりを持った運転を心がけてください。危険な幅寄せや割り込みは、法律で禁止されています。

### ※飲酒運転について※

アルコールは「少量でも」脳の機能を麻痺させます！

飲酒運転は、ビールなどの酒類やアルコールを含む飲食物を摂取し、アルコール分を体内に保有した状態で運転する行為です。アルコールには麻痺作用があり、脳の働きを麻痺（まひ）させます。

お酒に酔うと顔が赤くなる・多弁になる・視力が低下するなどの変化が現れ始め、同じ話を繰り返したり、足元がふらついたりします。

このように、飲酒時には、安全な運転に必要な情報処理能力、注意力、判断力などが低下している状態になります。

具体的には気が大きくなり速度超過などの危険な運転をする、車間距離の判断を誤る、危険を察知しブレーキペダルを踏むまでの時間が長くなるなど、飲酒運転は、事故に結びつく可能性が高いのです。

**飲酒したら絶対に自動車を運転してはいけません！！**

安全運転は、車・自転車などを運転する全ての人に共通する務めです。  
スピードの出しすぎや、交通違反はもちろん、飲酒運転など放漫で危険な運転はしない。  
交通事故は、運転していた本人も被害者も不幸にします。

**！！絶対にやめましょう！！**

